

編集室より

- ◇ 久しぶりに台風が岡山を通過した。割合軽くて済んだのは幸いであったが9月にはいると本格的台風のシーズンである。この数年何事もなかったからといって今年も無事だと甘くみるのは危険である。今年はアクの強い気象異変の続発している年である。暖冬に続く新潟地震そして異常乾燥と岡山県でも笠岡市など飲水にも事欠く状態を招いた程であった。台風14号のおかげで水不足の渦は一応解けたけれど恵の台風といっているうちはまだよいが、かつて地震などあったことのない新潟にあの被害を出した例もある、台風も岡山に来ないといえたものではない15号以後の台風に必要な備えをしておきたいものである。
- ◇ アクの強い天候と同様に今年の畜産は、卵価の急暴落など不況の嵐にふり廻された感じである。乳価、豚価は一応安定をしているが、事業連設立にからんで酪農民の団体である酪農連合会がしこりを残し、農業団体の組織に大きな波紋をなげかけた。肉牛は依然低迷を続けているし、卵価にいたっては3月20日以後kg当たり120円台に暴落をするという近来まれな大不況に見舞われ、養鶏農家はあえぐ以上の苦しみに毎日の新聞相場とにらみあっていた。政府の卵価安定対策が暫定的に9月一杯まで措置されたので8月下旬にはkg当たり170円台に戻したが、これも恒久的措置ではない。岡山県でも昨年中に4割からの増羽がなされ政府の経営大規模化奨励対策が効を奏したともいえるが増羽だけ奨励して流通構造の改善の措置を早くとらないところに今年のような事態を招来する原因があるのである。鶏も鶏買いから養鶏に規模拡大をするからには放任のままでは行き詰って来るのは当然である。流通問題の恒久的対策が望まれる。
- ◇ 異常な卵価安のために養鶏規模の縮小をする農家が目立ち、今年の秋ビナの注文減は極端だというが、この卵価安のさなかにあっても、1,000羽～2,000羽を飼養するいわゆる自立専業養鶏家が強味を発揮し赤字経営となっていないことは注目に値する。一番に悲鳴をあげたのは政府資金の融資をうけて借入金で規模拡大をした協業経営である。借入れの条件になっている必要以上の立派な鶏舎、それをフルに回転させていく運転資金の不足、そして元利金返済、加えてなれない協業から来る労働生産性の不均衡、二重三重の悪条件が重なって利潤どころか、生活費までも事欠く状態のところが多い。
- ◇ 次にこの卵価安がのり切れないのは副業的に養鶏をやっている農家である。卵価が正常な時はなんとか小遣い金をまかなうのには十分であったが経営の底の浅さから、経営力の弱さを露出してしまった形である。片手間の管理で駄鶏淘汰の不完全から来る餌の無駄喰い、産卵率の低さ、それに病気に対する処置の不完全さ等、円を競うきめの細かい養鶏経営には不資格であることが裏書された。結局自己資金を半分以上投入し、多少は粗雑な鶏舎であっても1羽1羽に愛情と意志の通う経営を営む5,000～2,000羽の健全な自立経営が勝利を占める現実をみるのである。
- ◇ これは養鶏に限ったことではない。酪農でも肉畜でも同じことがいえるのではなかろうか。個々の経営が堅実に保もてる規模の農家を助長し、それらを単位とした流通の組織化、市況圏の獲得、そこから出発した農家畜産がこれからの姿であるのではないだろうか。農協も市町村も焦点をしばって指導や融資に力を借すべきであろう。この不況のときこそ経営と組織を改善するチャンスであることを銘記すべきであろう。

岡山畜産便り 1964.08

本誌の予約申込要領

誌代 1 部 50 円 (送料共)

年間予約 600 円 (送料共)

但し 1 部購入の場合は増頁号の誌代をその都度の価格とし、年間予約者は増頁特集号の分も 1 部 50 円のサービス価格とす。

集団申込の特典

10 部以上を一括で年間予約する方は 1 部誌代を 45 円にします。100 部以上を一括で年間予約する方は 1 部誌代を 40 円に割引きます。但しこの場合は一括購読ですから個人別発送は致しません。

申込方法

同封の振替用紙に代金を添え住所氏名明記の上申込んで下さい。

集団申込は代表者の名で何人分かを明記、誌代合計金額を払込んで下さい。但し申込みは前金を建前としております。

申込先

岡山市桑田町 1 丁目 2 番地

社団法人岡山県畜産会管理普及課

(電話) 岡山 2-8575 番

(口座番号) 岡山 1303 番